

無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究(402)

目 的 風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで東京文化財研究所で収集・保管している無形民俗文化財についての記録・資料の整理を行う。また選定保存技術については、国により選定された技術及び未選定の技術について情報を収集し、そのなかで重要なものについては現地調査・記録作成を行う。

成 果 1. 風俗慣習の調査として樹木祭祀や正月儀礼等について、民俗芸能の調査としてシシ系芸能や風流系芸能等について、民俗技術の調査として鵜飼船の製作技術や箕の製作技術、製糖技術等について、伝承や保護の実態についての現地調査や資料収集を行い、現状把握とともに現地関係者とのネットワークを構築した。



厚沢部町(北海道)の鹿子舞

2. 災害被災地における民俗芸能、風俗慣習の調査として、福島県浪江町の苅宿鹿舞、宮城県女川町の獅子舞、福岡県朝倉市蜷城の獅子舞に関して調査を行い、資料収集・記録保存を行った。苅宿に関しては民俗誌を発行した。また無形文化遺産総合データベース・アーカイブスの構築とデータ収集を行った。
3. 第12回無形民俗文化財研究協議会を「無形文化遺産への道—ユネスコ無形文化遺産条約と地域の遺産」をテーマに東京文化財研究所において開催し、129名の参加を得た。3件の基礎講座、2件の事例報告をもとにコメンテーター1名を含めた総合討議を行った。成果は『第12回無形民俗文化財研究協議会報告書』にまとめた。また国指定の箕製作技術の団体等を招いて「箕サミット」を開催して86名の参加を得、技術伝承に向けた現状と課題の共有・討議を行った。成果は『箕 箕サミット2017の記録』にまとめた。
4. 選定保存技術については、未選定の文化財の保存技術の調査として、友禅の下絵に用いる染料である青花紙の製作について滋賀県草津市と共同研究を実施し、現地調査と記録作成を行った。また青花紙の使用の現状を明らかにするため、友禅作家・職人等を対象に、アンケート調査と聞き取り調査を実施した。

論 文・久保田裕道「無形文化遺産の防災という考え方—東日本大震災の教訓と無形文化遺産アーカイブスの試みから」『震災後の地域文化と被災者の民俗誌』新泉社 pp.53-68 18.1

報 告・今石みぎわ「タモノキとニソの杜—大島半島のタブノキの民俗」『大島半島のニソの杜の習俗調査報告書—資料編—』福井県大飯郡おおい町教育委員会 pp.55-71 18.3

・神野知恵「小豆島の民俗と伊勢大神楽」『無形文化遺産研究報告』12 pp.67-100 18.3

発 表・今石みぎわ「鵜飼のわざを後世へ伝える—民俗技術としての長良川鵜飼」第10回市民講座 長良川鵜飼ミュージアム 18.2.17

刊行物・『かりやど民俗誌』東京文化財研究所 18.3

研究組織 ○飯島満、久保田裕道、石村智、菊池理予、今石みぎわ(以上、無形文化遺産部)、江村知子(文化財情報資料部)、早川典子(保存科学研究センター)、菊池健策、宮田繁幸、神野知恵(以上、客員研究員)